

風の輪



余暇メンバーによるダンスの披露と
我が子を語る保護者の方々（円内）

今年、1月30日にプラザオ
ーサカ（大阪市淀川区）で開
催された「新春のつどい」に
出席し、久し振りに心を洗わ
れる感動を覚え
た。

この会は、風
の子そだち園と
ワークセンター
豊新（生活介護
事業所）に関係
する障害のある
人やその家族の
思いを語る場
であった。

家族の言葉に誰もが共感

「新春のつどい」で我が子を語る

特に、我が子
が成人になるま
で、障害がある
が故に幾重にも
手をかけてきな
がら、結果とし
て本人の意志を
無視してしまっ
たという親の反
省の言葉には、
誰しも共感させ
られるものであった。
障害の重い人の特徴である
言葉の無さが、家族間の関係
を始めとして周りとの様々な

関係を困難にしているが、一
番辛い思いをしているのが本
人であろう。本当は言葉だけ
でなく、声や表情、態度をも
って一生懸命、自分の思いを
表現しているのである。しか
し周りの人たちは言葉に頼っ
てしまっている、本人を
分らない存在として見てし
まう。障害児者への理解は、
そこが出発であろうと思われ
る。

この周りの人との関係性の
障害こそ、障害者が生きにく
い社会にできてしまっている
のである。

さて、4人の家族の率直な
思いの発言と裏腹に、利用者
たちは舞台上で力強く和太鼓を
演じ、ダンスや合唱に心から
楽しく参加し興じている姿が
あった。親の思いとは別に成
人になった子どもたちは、今
もしっかり足を地に付けて生
きているようである。参加し
た多くの家族は、おそらく安
堵の思いで集いを眺められた
ことだろう。

社会福祉法人 水仙福祉会

理事長・松村寛